第３学年　道徳科学習指導案

新居浜市立泉川中学校　教諭　坂本 由香

１　単元名　　世界の人権問題

２　単元の目標

・　世界各地で起きている様々な人権侵害の現状（難民、児童労働、人種・性別・経済格差などによる差別）を知り、その不公正さに対して強い問題意識と憤りを持つ。

【知識及び技能】

・　人権侵害に苦しむ人々の心情に寄り添い、その問題が自分たちの生活や社会と無関係ではないことを理解する。　【思考力、判断力、表現力】

・　社会正義と公正・公平の実現に向け、グローバル社会の一員として、自分にできる具体的な生き方や行動をについて考え、実践しようとする意欲を持つ。

【学びに向かう力、人間性等】

３　単元について

(1)　教材観

本題材では、特定の資料（読み物）に限定せず、世界中の様々な人権問題に関するニュース記事、統計、写真、動画などの複合的な資料を活用する。難民問題や児童労働など、スケールの大きな課題を扱うことで、生徒にグローバルな視点と当事者意識を持たせ、地球規模での公正な社会（ESD の視点）の実現がいかに重要であるかを考えさせる。これらの資料は、身近な差別の問題が世界的な差別問題と繋がっていることを考えさせる上で有効である。

(2)　生徒観

本学級の生徒は、国内の差別問題（部落差別など）について学習を進めており、不合理な差別に対し強い憤りを持つ者が多い。一方で、世界の人権問題については、知識として知っていても「遠い存在」と感じがちである。授業で自分の意見を発表することには慣れているため、既存の知識を基盤に、日本の消費活動や生活が世界の人権問題にどう影響を与えているかを議論させることで、「自分事」として捉えるきっかけを与えることができる。

(3)　指導観

本時は、生徒が日常では触れにくい世界の深刻な人権問題の現状に正面から向き合わせ、問題の根深さと不公正さに憤りを持たせたい。その上で、これらの問題が持続可能な社会（ESD）の実現を妨げる大きな要因であること、そして、公正、公平、社会正義を

追求する生き方が、世界の人権問題の解決に不可欠であることを考えさせたい。生徒が、「無関心」という態度こそが差別を助長するということに気づき、積極的な関わりを持つ生き方を自ら選択できるように導きたい。

(4)　ESD との関連

・　本学習で働かせる ESD の視点（見方、考え方）

責任性・・・今残っている問題は、今生きている自分たちの問題であり、自分たちがなくさなければならないという使命。

公平性・・・自分も周りも、その自分の住んでいる世界が豊かになることが、真の幸せ。自分だけでなく、周りの人々、そして自分の住んでいる世界が豊かになることが、真の幸せである。

多様性・・・様々な視点を持って考えること。異なる文化、意見、立場を尊重し、受け入れる価値観。

・本学習で育てたい ESD の資質・能力

・批判的に考える力

人権侵害や差別の問題について、情報源の信頼性を吟味し、多角的な視点から深く分析する力。現代の価値観や社会構造を疑い、問題の本質を見抜く力。

・多面的・総合的に考える力

ある人権問題が、政治、経済、社会、環境、歴史といった様々な要素とどのようにつながり合っているかを理解し、総合的に捉える力。

問題の根本原因を構造的に把握する力。

・コミュニケーションを行う力

多様な背景を持つ人々の人権や文化を尊重し、自分の考えを相手に配慮しながら明確に表現する力。

・他者と協力する態度

異なる意見を持つ他者と対話し、共通の目標に向けて協働して問題解決に取り組む力。当事者の立場や感情を理解し、共感に基づいた行動をとる態度。

・未来像を予測して計画を立てる力

人権が尊重された望ましい未来像を設定し、その実現のために自分たちが今、何をするべきかを考える力。

・　本学習で変容を促す ESD の価値観

人権・文化・平和を尊重できる

異なる文化、価値観、生き方を尊重し、多様な背景を持つ人々と共生していく力。

幸福感に敏感になる

不正や差別に直面したとき、「自分には関係ない」と傍観するのではなく、「自分ごと」として捉え、平和と公正のために声を上げ、行動を起こす力。人権問題に関する情報やメディアの言動を鵜呑みにせず、その背景にある構造や倫理的な問題を批判的に分析する力。

人種、性別、国籍、経済状況などにかかわらず、今を生きるすべての人々が人間らしく平等に生活できなければならないという認識。

・ 達成が期待される SDGs

5　ジェンダー平等を実現しよう

10　人や国の不平等をなくそう

16　平和と公正をすべての人に

4　単元の評価規準

（ア） 知識・技能	（イ） 思考力・判断力・表現力	（ウ） 主体的に学習に取り組む態度
①　自他の人権を尊重し、人権問題を解決するために具体的に役立つ知的理解を深め、実践的な行動に結びつけるための土台となる知識を身に付けている。 ②　人権に関する知識を基盤とし、共感力、批判的思考力、問題解決技能といった実践的な技能を習得し、人権尊重の態度を身につけている。	①　人権侵害を許さず、差別や偏見を見過ごさないという倫理観を持っている。 ②　学習を通して得た知識や技能を、社会をより公正にするために活用している。 ③　身近な生活の中で人権課題を見つけ、その解決に向けて具体的な行動を起こそうとしている。	①　学習を通して人権尊重の精神を深め、社会での実践に結びつけようとしている。 ②　他者の意見や感情、特に少数者の立場や痛みに共感し、多様性を受容しようとしている。

５　単元の指導計画（全５時間）

次	主な学習活動	学習への支援	評価（△）　備考（・）
1	自分の地域や日本での人権問題について考える。	人権がすべての人に与えられた普遍的な権利であることを理解させる。	△ア① ・　人権の定義や重要性について自分の言葉で説明できているか。学習への主体的な取り組み姿勢。
2	人権問題の背景・構造理解（調査と分析）	世界には様々な人権問題があることを知らせ、身近な問題とのつながりを考えさせる。	△ア② ・ 人権問題の現状とその構造的背景に関する知識を習得できているか。
3	問題の「原因」と「つながり」を考える（深化）	問題が一つの原因だけではないこと、複雑に組み合っていることを理解させる。 住みよい町づくり、国づくり実現のためにはどうしたらよいのかを話合わせる。	△イ②③ ・　他者の心情に寄り添い、問題が自分たちの生活と無関係ではないことを理解しているか。 △ウ② ・　多様な意見や感情に共感しようとしているか。
4	解決策の構想と発表資料作成	生徒自身が責任を持って行動できる具体的なプランを立てさせる。SDGs の目標（5, 10, 16）との関連を明確にする。 ※教師がモデルを作成	△ア① ・　解決に向けて、具体的な行動を提案できているか。協働で資料を作成し、論理的にまとめられているか。
5	発表と行動の決意	学習を通して人権尊重の意識を高め、これから自分がどのような行動をしていくか、決意文を書き、誰も取り残さない世の中を作るための第一歩を踏み出させる。	△ウ② ・　行動を実践しようとする強い意欲を持っているか。学習を通して得た知識や技能を社会に活用しようとする態度が見られるか。